

TIA連携大学院

Key Words

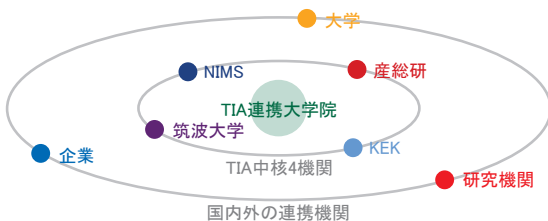
Open education, Human resource development

概要

「TIA連携大学院」とは、国内外の大学・産業界の連携協力のもと、一つの大学・研究機関だけでは到達できない高水準の教育を目指す、大学院教育インフラ。筑波大学を中心に「TIA連携大学院」体制を構築し、国内外に開かれた教育で、優れた人材を育成。

「TIA連携大学院」構想

- TIAを中心として
国内外の大学・産業界と連携協力



- オープンエデュケーション

- TIAおよび国内外の連携研究者によるマルチメンター制で、大学の枠を越えた連携教育研究体制を構築。
- 単位互換、ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリーで、他大学にも開かれた教育体制を構築。

- 学位プログラム

「TIA連携大学院」体制の要として、筑波大学数理物質科学研究科に学位プログラムの開設を目指す。

取り組み

- サマー・オープン・フェスティバル 2013年度～

国内外で活躍する研究者や企業の技術者による講義やシンポジウムを開催。Nanotech CUPALとも連携。



講義

開催年度	開催実績		
	講義数	シンポジウム数	参加者数 (人)
2013	6	4	846
2014	8	2	635



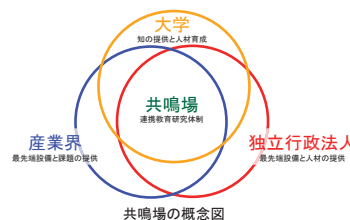
シンポジウム

- オナーズプログラム 正式名称 つくばナノテック拠点産学連携人材育成プログラム 2010年度～2014年度

筑波大学独自の教育プログラムで優れた人材を育成。

共鳴場

オナーズ学生に連携コーディネータを配置。産学独の「共鳴場」による連携教育研究体制を構築。



オナーズ学生の共鳴場の例

産業界	トヨタグループ (豊田工業大学)
大学	東北大学 広島大学 グルノーブル工科大学
独立行政法人	産総研 NIMS SPRING-8

共鳴場の概念図

- 大学院コース 2013年度～

筑波大学数理物質科学研究科に、3つのコースを開設。社会のニーズに合わせた人材を育成。

パワーエレクトロニクスコース

- トヨタ自動車・デンソー寄附講座
- 富士電機寄附講座
- 連携大学院(産総研)

ナノエレクトロニクスコース ナノグリーンコース



パワーエレクトロニクスコース

海外派遣

海外のナノテクノロジー拠点にある有名大学に、3～4か月派遣。

海外派遣先と派遣した学生数

海外派遣先	学生数 (人)
● スタンフォード大学	9
● ニューヨーク州立大学アルバニー校	4
● ノースイースタン大学	1
● ルーヴェン・カトリック大学 (imec)	3
● グルノーブル工科大学 (MINATEC)	13

- 新オナーズプログラム 正式名称 つくば共鳴教育プログラム 2015年度～

オナーズプログラムを、ナノテクノロジー分野からエネルギー・環境テクノロジー分野に発展。



国立大学法人 筑波大学

数理物質系 系長 伊藤 雅英、数理物質科学研究科 研究科長 木越 英夫